

特集

特集 1 真庭市におけるバイオマスによるまちづくり

「バイオマスツアー真庭」の誕生と「観光振興」

中 村 政 三（一般社団法人真庭観光連盟）

真庭観光連盟の中村と申します。よろしくお願い致します。

観光連盟と「バイオマスツアー真庭」

私ども観光連盟は、平成 17 年 3 月 31 日に真庭市が合併、その 1 年後に組織ができました。そこで主要事業としてバイオマスツアーを行っています。

バイオマスツアーですが、この会場にも、明日はツアーに参加いただける方、また、実際にツアーとして請けていただいている事業者の皆さま、関係者の皆さまがおられますが、ツアーがどうして誕生したのかということと観光振興ということでご説明をさせていただきます。

国内唯一の「バイオマスツアー真庭」の誕生。顔の見える産業観光をコンセプトに、平成 18 年 12 月にツアーがスタートしました。来年（平成 28 年）の 12 月で 10 年目を迎えるというツアーになっていますこのバイオマスツアーは、真庭市のバイオマスの最新の取り組みを見せるツアーになっております。

そのツアーですが、開始までの経過で言いますと課題として 4 点ほど挙げています。

ツアー開始前は、視察者が、各企業に、平成 16 年度で延べ 6 千人、17 年度で延べ 1 万 5 千人の方が来られていました。

この当時はバイオマスとか環境という言葉

が日本全国でも主流になり、一度、真庭を見てみようということで、企業に視察者が増えました。視察者が増えることによって、いろんな要望がありますので、日取りの依頼の調整とか、当時は役場ですかね、そういったところにも依頼があって、非常に調整が難航していました。

また、真庭に来られる方は日本全国から来られていて、1 か所だけ見たら帰るとか、アクセスが非常にいいので、1 か所見て、お昼も食べずに、泊まらずに、山陰の方に抜けたりと、そういった現状がありました。

また、視察対応者の育成ということでは、対応する方も同じ方で対応していましたので、日々対応に追われているなどといったことが課題として挙げられていました。

その課題を解決するに向けて、視察の窓口を一本化したらいいいのではないかなということと、せっかく真庭に来ているので、効率的に見ていただき、一つの企業だけではなく、真庭全体でやっているというところを見て頂く、もちろん地域への経済波及ということで、食事も真庭市で取ってもらう、宿泊もしてもらう、お土産品も買ってもらう。そういったことを課題解決に向けて整理しました。それで、受け入れ窓口の一本化と真庭のバイオマス事業による地域づくりをテーマとした、新たな産業観光の創出ということで、この「バ

イオマスツアー真庭」がスタートしました。

このバイオマスツアーのコンセプトですが、通常産業観光といいますと、工場見学だけで終わってしまいますが、このバイオマスツアーは、真庭市が循環型社会を構築しつつある地域そのものを見て頂く。自然、暮らし、産業。これが輪になっていること、「バイオマスツアー真庭」の仕組みというのは、企業、行政、観光連盟の三つがコラボレーションしてツアーを支えている。ここが他の産業観光と違うものです。また、このツアーができたことによって、真庭市が合併して、市内各地を巡る初めての旅行商品になりました。

そうした中、ツアー概要ですが、ツアーは通年実施をしており催行人数は20名です。最近では個人であるとか小グループの方の問い合わせが非常に多いので、月に1回はそういった方が参加できるよう設定しています。

コース内容も、Aコース、Bコースとあり、ツアーコース内容を毎年、ツアー参加のお客さんからアンケートを採っておりますので、そこで声を生かしながら毎年リニューアルをかけています。

ツアー料金も、この平成27年の4月からは、持続可能に運営できるようにということで日帰りだと1泊2日の両方をアップしており、日帰りだと8千円ということになっております。

宿泊もしていただくということで、湯原温泉の天ぶら油の取り組みを見られるということで、湯原を中心に、蒜山、市内のビジネスホテルも含めて宿泊もできるようにしております。

また、実施しているのは私ども真庭観光連盟ですが、平成25年度に旅行業の登録を行

い、このツアーの運営をしているところがあります。

よくご承知の方もおられるかと思いますが「バイオマスツアー真庭」の1日の様子を紹介させていただきます。

まず、バイオマスツアーの専属ガイドが当連盟におりますので、その者が1日バスに乗って終わりまでご案内をします。

勝山にある木材ふれあい会館で、真庭市林業・バイオマス産業課の職員の方に出ただいて、市の取り組み内容説明と意見交換をします。

その後、お昼ということで、冒頭の中村教授の内容にもありましたが、市内で食べるということでは、地産地消のメニューを使ったものを提供しております。

また、昼食が終わったら勝山の町並みを散策していただいて、町並みには辻本店という酒蔵があり、酒蔵で試飲をしていただいたり、買い物をしていただいたり、お土産も買って頂くような取り組みをしています。

それが終わりますと、実際に工場見学の方に出向きます。こちらは銘建工業さんですが、バイオマスのエネルギーを作る施設を見ます。こちらではペレットを作る施設です。

次にそのエネルギーを実際に使っている施設。これは勝山にある水夢（すいむ）という温水プールですが、そういった施設を見ます。こちらは本庁舎ですね。こちらの冷暖房も全部ペレットといったことになっておりますので、そういった使っている施設を見て頂く。

そのほかにも真庭市内にはバイオマスの関連企業が約30カ所あります。木質はもとより、山の中に入るとか、希望があったら農家さんで使っているハウスボイラーを見た

り、あと、蒜山には酪農ということで、ジャージー牛のバイオマスを見ていただいたり各企業と連携して展開しています。

また、1カ所だけ見るのではなく、先ほど言いました5カ所ほどを見て、真庭の循環型の社会を見ていただいております。

宿泊は、湯原温泉ですね、こちらにダムがありますけど、湯原温泉に泊まります。湯原温泉では、全ての旅館ではないですが、ペレットストーブを置いている旅館があります。宿泊しても、こういったペレットストーブのお話とかを旅館の方からして頂くという形です。

湯原に泊まると、天ぶら油の送迎車を使っていますので、その取り組みが聞けます。

「バイオマスツアー真庭」の実績と今後の展望

今日までですが、9年運営してきました、参加者はどうなっているかということについて、直近の昨年度は過去最高の実績で、開催が129回、2,912名の方が参加をされました。うち宿泊者は1,053名で、約36%ぐらいが宿泊につながっています。

単純にバイオマスツアーだけの売り上げでいいますと、約2,600万円の売り上げがあります。その中の直接的な経済効果でいいますと、バスを使っていますからバス会社、食事施設、宿泊施設、見学代等ということで、約1,500万円の地元への直接的な経済効果があります。

これまで運営してきて参加者が累計で1万6千人を超えるということと、あと、国内の47都道府県はもとより、海外からもご参加いただいております。そういった地域全体でやっている取り組みが評価されて、いろんな賞、

平成21年には新エネ大賞の経済産業大臣賞を受賞しました。

参加者の声ですが、主立ったものをベスト1、2、3と挙げていますが、木質バイオマスの普及促進のトップランナーとして頑張っているということとか、官民一体となって地域資源を活用しようとする取り組みが大変参考になったと、そういった声が多々あります。

また、その他の声としましては、このツアーがバイオマスの企業だけ見るのではなく、蒜山高原であるとか、湯原温泉、勝山の町並みと、観光とうまい具合にマッチングさせていると、そういったところがすごいねということで評価をいただいているところであります。

こちらのバイオマスツアーを運営してきました、ツアーのノウハウを、バイオマスだけではなく、真庭市には観光地もたくさんありますので、それを生かしていこうということで、平成20年から真庭の観光地を巡るツアー、「真庭人（まにわびと）」ということで展開をしております。

こちら、春になると、サクラということでサクラのツアーをしてみたり、6月になると、日本一と絶賛された北房のホタル、そういったものを見ていただいたりします。

また夏になると親子で、蒜山地域の津黒高原で親子のふれあい体験をしたり、また秋になりますと、勝山のだんじりげんかななども見ていただいたりしています。合わせて紅葉ということで、バイオマスツアーから派生して、こういった観光のツアーも展開しているという形です。

冬は冬ならではの、「冬山アドベンチャー」と書いてありますが、ジャージー牛を見たり、

雪で遊んだり、お雑煮対決とか、そういったこともやっております。

バイオマスツアーと観光のツアー、真庭人ツアーということで、これまでの9年について合計してみますと21,452名となっています。年度によって多少の大小がありますのは、当連盟でも現在分析をしておりますが、なかなか問い合わせがなくて減っているときもあれば、去年のように一気に上がったということも、これはいろんな情勢が絡んできますので、そういったことになっております。

これまでこういったツアーを展開する中で、地域としてのメリットではバイオマスに取り組む真庭市というのを全国に発信ツールになったということで、真庭市＝バイオマスということが日本全国でも浸透しておりますので、そういったことが挙げられます。

また、このバイオマスツアーだけでいいますと、観光の側面からは、真庭市に来ることがなかった層を吸収できた。例えば、北海道とか沖縄の方もご参加をされます。普通でいいますと、北海道の方が真庭に観光に来ようかなというのは、なかなか難しい状況ですけど、やはりバイオマスということでうちに来ていただいて、来た方が「よかったから今度は家族で来るわ」ということで、そういった観光にもつながっているという形です。

それと、真庭のファンとかりピーターも増えておりますし、あと、直接的な経済の波及効果も起きているということになっていきます。

私どもがコンセプトにしておりますのは、「地域の人たちの生きがい、やりがい、楽しさ、誇り、」これにつながって、地域が元気になって、そこが活性化されているということが

メリットとしてはあるのかなということと考えているところです。

ここから真庭市の観光客入れ込み客数ということで、これまでご説明したような取り組みをしておりますが、観光の取り組みもいろんな角度で各種取り組みをしています。

近年のものを合併前からずっと出しております、直近の昨年度、26年は400万から一気に377万ぐらいいまで落ちていますが、これはいろんな要因があって、昨年は雨が、夏の8月でいいますと、5週間あって、5週間の土日に全て大雨警報が出たなど、そういった要因もあります。

ただ、伸びているところは、蒜山、「ひるぜん焼そば好いとん会」が優勝して、その波及効果があったり、高速道路の無料化があったり、そういうものがありますが、現状では下がっていると、真庭市全体では500万人の誘致をしようということを言っておりますのですが、現状はこういった内容です。これは真庭市の独自調べということになっておりますので、ちょっとご紹介だけをしておきます。

今後の展開ということで、観光客も説明したように落ちてきているという中で、先程バイオマスツアーのコースメニューを増設しますとか、観光ツアーをもっと強化してやります。あと、物販事業についても同じように展開していきます。

そうした中、先ほど坂本部長さんからの説明がありましたが、発電所、この6月から見学スタートということで、新しいコースを作って見学をいただいております。

また今、協議中ですが、この7月からバイオガスシステムの構築モデル事業が始まりまして、こちらにもツアーで見えていただこうとい

うことで、ツアーのメニューの増設中、検討中ということにしております。

また、このバイオマスツアーでの事業でいますと、ツアー客へ真庭ならではのお土産を開発して販売しようということで、こちらにあります真庭のペレットクッキーですね。バイオマスツアーの関連事業者の方が、こういったペレットを使ったお菓子があるといいのではないかと、そういう発案を得て開発してつくったものです。これは明日、ツアーに参加される方は漏れなくもらえるようになっております。

他にはCLTチョコレートですね。あと「ヒノキキブン」といって、ヒノキのチップを入浴剤にしたものもつくってございまして、これは勝山駅でご購入できるようになっておりますが、そういったお土産品も真庭ならではの、といった内容で開発しているところです。

また、新しくは林間学校、教育旅行を誘致しようということで、このバイオマスという

真庭、環境に配慮したクリーンな町ということで、今、関西からの営業等に力を入れています。

そういう中で実際に受け入れが始まって、現状でいうと、受け入れができないような状態まで問い合わせも入ってきています。

また、先ほど紹介した観光案内所の活性化ということでは、勝山の駅に私どもの事務所がありますので、真庭ならではのお土産とか特産品、これらの販売も行っています、まだまだいろいろ活用して、地域のものを活用して新しいものをつくっていきたいなと思っています。

ここまでご紹介してきました、「バイオマスツアー真庭」から派生して、いろんな事業が観光にまで伸び、お土産品までつくっておりますので、まだまだ発展途上ではありますが、ご紹介させて頂きました。

本日はありがとうございました。